



大安寺護寺会

編集・発行 大安寺護寺会広報部
恵庭市大町4丁目2番25号 大安寺内
TEL (0123) 34-1093
FAX (0123) 33-8005
ホームページURL <http://www.dianji.net>



平成29年6月下旬 大安寺境内

日頃のお礼



大安寺護寺会 副理事長
鏡 貢

初夏の候、皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

檀信徒の皆様方には、日頃より大安寺護寺会にご理解とご協力いただきしておりますことに対しまして、お礼を申し上げます。

昨年は、皆様方のお力添えをいただきまして、新ご本尊さまをお迎えし、開眼法要を営むことができました。また、大安寺のご開山であります森田悟由禪師さまの百回忌法要・先代住職の十三回忌法要の折には、皆様方のご協力により、滞りなく終了することが出来ましたことに、改めてお礼申し上げます。

今年度も半ばになりましたが、後半に向けて役員一同大安寺法要・行事を皆様方と共に進めて参ります。と思つておりますので、宜しくお願ひいたします。まだ先の話ではありますが、二〇三八年には大安寺開創百五十年を迎えるにあたつて、皆様方のご指導・ご助言をお願い出来れば誠に幸いと考えておりますので、これからも宜しくお願ひいたします。

終わりになりますが、皆様方のご健勝を祈念申上げますと共に今後もご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、日頃のお礼といたします。



作・羽田野 収

檀 信 徒 寄 稿 文



残された者の務め（硫黄島編）

住吉町 三浦 孝治

太平洋戦争最大の激戦地「硫黄島」で、圧倒的な米軍を迎え撃ち、死闘を尽くして祖国を護り、米軍に「勝者なき地獄の戦場」と言わせしめ、孤軍奮闘玉碎した硫黄島守備隊員二万余名の一人として、私の父は戦死しております。

大安寺三世押見龍江住職より、父の生涯にふさわしい

「護國院涛岳義忠居士」と云う戒名をいただきました。

戦後五十年を経た平成七年に日本政府派遣硫黄島戦没者遺骨収集団の一員として同島に参りました。

機上から眺めた硫黄島は、南海に浮かぶ緑の美しい島に見えましたが、地上に降りてみると、砂浜には砲撃で破壊された多数のトーチカ（コンクリート製の防御陣地）が無残な姿を晒しており、米軍が占領後一木一草も無く焦土と化した戦場一帯に、空中から散布した銀ネムの木が生長繁茂してジャングルと化しておりました。

緑に覆われた岸壁には、大小の弾痕が不気味に残り、点在する地下壕の壕口周辺は、火炎放射で焼け焦げた跡と無数の弾痕が集中しており、激しい戦が行われたことを教えてくれました。

硫黄島の状況は、アメリカ軍が占領後、地上に斃れた多数の日本兵の死臭に悩み、屍を窪地や谷間に深く埋め込み（集団埋葬ともいわれる）整地をしたり、数多く点在する洞窟や地下壕内に斃れている日本兵の屍をそのまま放置して、壕口をダイナマイトで爆破閉鎖してしまいました。

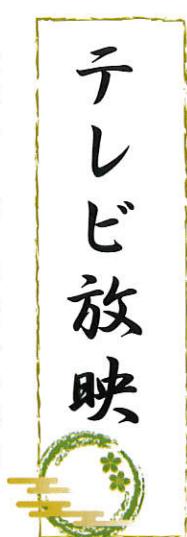
収集作業は、重機により地下壕発見の掘削作業を行い、ガス検知及び不発弾等の危険が無いかを確認後、硫黄の熱気が充満するサウナ状態の地下壕の奥深くまで入りました。機器類が散乱している壕底の土砂の中に埋没しているご遺骨を、流れる汗を拭わず泥まみれとなつて掘り起こし、体力の限界に達するまで、壕内に留まって探し出す厳しい作業を行うのです。

父の遺骨をもしかして探し出すことが出来るのではないかとの思いで、収集活動に参加をしたのですが、今は父と共に命がけで防人の責務を果たして散華された総ての御英靈をお迎えするのが残された者の務めであると決意して活動をしております。

同島の遺骨収集事業には、昨年までで二十二回参加をさせていただき



本年一月七日午前十一時から放送の「EXILE TRIBE 男旅」の渡い大人のたしなみツアーや、恵庭で劇団 EXILEメンバード札幌出身の青柳翔さんと苦小牧出身の八木将康さんが、大安寺を訪れお二人とも初めての写経を体験する様子が放送されました。



献詠曲は、道元禅師さまがお詠みになつた「峰の色渓の響きも みなながら わが釈迦牟尼の 声と姿と」という「大本山永平寺第一番御詠歌（渓声）」です。北海道第二宗務所百二十名と長崎県から参加の講員さん達と一緒に法堂でお唱えしました。

心ひとつに法堂に響き渡るお唱えと、ご本山で御開山道元禅師さまに今献詠しているという感動は生涯忘れられません。参加出来た喜びと感謝の念でいっぱいの素晴らしい記念大会となりました。

(訳) お経を開くに当たつての祈りの言葉
この上なく、しかも甚だ深く、かつ微妙であつて妙なる仏の教え・法は、百千万劫と言われるほどの無限に近い時をかけても遭遇することは難しいものです。私は今までお経を見、教えを聞き、受持することができます。どうぞ、仏の真実の義を理解させて下さい。

今号より日常読経する偈文（げもん）やお経の意味を分かり易く解説します。今回は『開経偈』です。經典読誦に先立つてお唱えする偈文です。

無上甚深微妙法
我今見聞得受持
願解如來真實義



中村 美枝子

今年の全国大会は、五月二十四日、サンドーム福井を会場に、梅花流創立六十五周年記念奉賛大会として行われ、大安寺より八名で参加して参りました。

また、今回初めて大本山永平寺での報恩献詠となりました。ご本山の計らいにより普段は通る事の出来ない唐門（禅師さまのみがお通りになられる門）や修行僧が入門と下山する時のにくぐる山門を特別に開門して下さり法堂（本堂）へ向かいました。

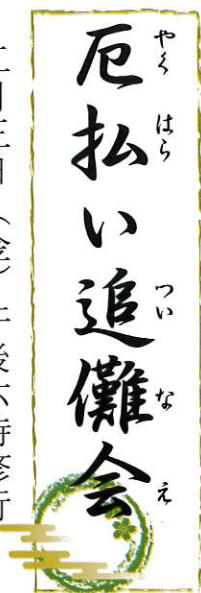


平成二十九年上半期の行事報告

元朝・大般若祈祷会

一月一日（日）午前0時修行

人類の幸福・世界平和・仏法興隆・家門繁栄等、仏法僧の三宝に帰依するすべての人々が永く久しく幸福である事を皆様と祈願し、大般若・立春大吉・鎮防火燭（ご尊家の万福を祈願し、ご祈祷した御札）を皆様にお渡し致しました。



二月三日（金）午後六時修行

新しい年を迎えるにあたり、年祝・本厄・前後厄・合格・交通安全・身体堅固・家内安全・商売繁盛・安産祈願を致しました。



釈尊涅槃会

二月七日（火）午前十一時修行

す。

恵庭幼稚園の園児たちと涅槃団子をお供えして、無病息災を願いまし

本堂では赤い半纏を着た本厄・年祝・合格祈願の方による豆まきが行われました。

春季彼岸会

三月二十日（月）午前十一時修行

多くの方がご先祖供養に訪れ、静かに手を合わせてお祈りする姿が見られました。

また、先祖供養と合わせて水子供養も行いました。

五月八日（月）午前十一時修行
一般には「花まつり」とも言われ、恵庭幼稚園の園児たちとお釈迦さまのご誕生をお祝いしました。
お釈迦さまが乗った白い象を園児たちが、山門から本堂入り口まで綱を引きました。また、花まつりの歌を歌つて誕生をお祝いしました。

「お寺からの お知らせ」

護寺会総会



一月三十一日（火）午前十一時より、平成二十九年度大安寺護寺会総会が開催されました。総会では理事及び地区幹事が出席し、以下の事項が審議され承認されました。

- 一、前年度会計決算と事業報告
- 二、本年度予算案と事業計画
- 三、護寺会費（年会費額）を三年間据え置きとする。
- 四、役員（理事）の選任

本山参拝旅行

皆様から頂いたタオルから、本山に納める雑巾類を縫うボランティアです。おしゃべりしながらお裁縫しませんか。

裁縫奉仕



参拝する『秋の金沢・能登の旅』を予定しております。

皆様から多くのご要望が寄せられていきました大本山永平寺参拝の旅を十年ぶりに企画いたしました。また、プロが選ぶ日本のホテル・旅館百選で三十年以上も一位を取り続けていることで有名な和倉温泉加賀屋にも宿泊します。

参加人数が「三十名」と限りがございますので、参加ご希望の方はお早めにお申し込みください。
（申込締切日 九月末日）

平成二十九年下学期
大安寺行事予定

○八月十六日（火） 午後 一時
盂蘭盆会・初盆供養
(十二時より昼食)

○九月 五日（火） 午前 十時
両祖報恩会・万灯供養

○九月二十三日（土）午前十一時
秋季彼岸会・水子供養

生前戒名授与式（午後二時）

○十一月八日（金） 午前十一時
釈尊成道会

次号護寺会だより十九号は
平成二十九年十一月末頃の

発刊予定です。

本年十一月十三～十六日（三泊四日）の日程で、大本山永平寺を

○九月十一日（月） 十時～十一時半
○十月十日（火） 十時～十一時半
○十一月十三日（月） 十時～十一時半